
第1回C－1 グランプリ

スティーブチェイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

第1回C-1グランプリ

【Nコード】

N9366B

【作者名】

ステイプチェイス

【あらすじ】

コナン、もしくはそれに関連するキャラクターが総合格闘技で激突する。果たして栄冠は誰の手に…格闘技対戦を主としています。それでも大丈夫という方はぜひともお入りください。

1ーインフォメーション(前書き)

ちなみにCー1のCはコナンのCです。予め伝えておきます。

1 インフォメーション

まず、これを考えたきっかけは蘭です。

現在、原作を読み返したところ、蘭が空手で倒した相手はすべて男…では女、もしくは身近に居るキャラクターであれば…

ということと考えた完全なるネタ企画です。

ちなみにルールはこのように設定しています。

1. 基本何をしてても良いが、飛び道具は使用してはならない
2. 危険な技は使用してはならない
3. 相手が生死をさまようような状態に陥れてはならない。
4. リングアウトはないものとする（基本は某格闘技と同じリングで勝負をする）
5. 試合はトーナメント方式で16人で行う勝ち上がり方式とする。以上です。

ちなみに、今回出場する猛者たちは以下のメンバーです。

毛利蘭…帝丹高校空手部女子主将。優勝候補筆頭

毛利小五郎…元柔道部

高木渉…警視庁“男”代表

佐藤美和子…警視庁“女”代表。隠れ優勝候補

京極真…杯戸高校空手部。優勝候補

服部平次…改方学園高等部剣道部。優勝候補

遠山和葉…改方学園高等部合気道部。隠れ優勝候補

黒羽快斗…今回は“怪盗キッド”として参加。大丈夫か？

長島茂雄…港南高校野球部。しかし、バットはルールにより使用不可

ジョーディ…意外な才能を持つ？

工藤有希子…潜在能力はいかに…

妃英理…有希子同様、潜在能力は…

宮本由美…警察官として、勝手に推薦

稲尾一久…こちらも沢村のグローブは使用不可。果たしてどんな秘策を…

2枠余りました…一応16人出そうと思ってましたが、あと2枠につきましては、この作品をご覧の皆さんの意見を参考にしたいと思います（いわゆるワイルドカードってやつです。ただし、過去にコナンに出てたキャラクターに限定します）。また、組み合わせに付きましてこのカードが見たいというご希望があれば、それを基準に決めて行きたいと思っています。

それではまた次回に…

試合開始！（前書き）

先日募集した結果、ワールドカードの2名は工藤新一と赤井秀一に決定しました。

また、組み合わせは面白み等を考慮します。

試合開始!

組み合わせ会場

参加者14人の猛者たちが緊張感漂う抽選会場にいた。しかし、ワイルドカードの2名がまだ到着していなかった。

「一体、誰なんだ? その2人って」

小五郎はそのことを気にかけていた。

次の瞬間、大会主催者が壇上に上がった。

「さあ、只今から抽選をはじめたいと思います…と、その前に、まずはワイルドカードの2名を発表したいと思います…工藤新一君と赤井秀一君です!!!」

発表されるや否や、14人の猛者たちは驚きと不安を隠せなかった。なにせ、新一と赤井の参加は誰もが予想していなかったことだ。

そうこうしているうちに、組み合わせを決める箱が出てきた。

「これを持ってればいいんでしょ?」アシスタントを担当している灰原哀が主催者を睨むかのようなまなざしで箱を持っていた。

「そ、それでは只今から抽選をはじめたいと思います。予め予備抽選を行った結果で本抽選を行います。選手は引いた番号を大きな声で発表してください。それでは始めます。まず、始めは…」

と主催者が名前を呼び始めると、選手は箱の中から、数字が書かれ

たボールを取り、それを発表していく。対戦相手が決まると、おおっという声が上がったり、どよめく声も上がったりした。

結果、初戦の対戦相手は次のとおりになった。

A 毛利小五郎－妃英理

B 赤井秀一－工藤有希子

C ジョディ－稲尾一久

D 遠山和葉－高木渉

E 工藤新一－佐藤美和子

F 長島茂雄－毛利蘭

G 宮本由美一黒羽快斗

H 服部平次一京極真

対戦が決まり、選手は痺れを切らしていた。そして、開会式が始める。

開会式会場

「只今から、第1回C－1グランプリの開催を宣言します。」
と主催者が言うのと、わあああと歓声が上がった。

そして、毛利蘭が選手宣誓をする。

「私たち選手一同は、日ごろ鍛錬してきたことをこの場に生かし、全力で戦うことを誓います！」

そして、またわああと歓声が上がった。

いよいよ、大会の幕開けだ!!!

試合開始！（後書き）

さあ、開会式も終え、試合がまもなく始まります。

これから基本1試合1話でまとめたいと思っていますので、よろしく願います。

よろしければ感想、評価等していただければ幸いです。大会の展望でも構いませんよ。

1 回戦第1試合〈別居中夫婦対決（前書き）

試合展望

総合力で妃英理に軍配が上がりそうだ。頭腦的な作戦で大技を狙いに毛利小五郎よりは小技が効き、底から勝負に持っていくことが出来るか。

一方の名探偵で、力技では一枚上手の毛利小五郎は、早い段階で妃英理のスタミナを奪い、一気に勝負へ持ち込みたい。

なお、この大会は1試合10分で行われます。それでも決着がつかなければ、サドンデスとして、一度でもダウンされれば負けと言う特別ルールを採用します。

1回戦第1試合〈別居中夫婦対決

「只今から、第1試合を開始したいと思います。まずは、選手の入場です!」

と主催者が言うと、ステージに向かって、2名の選手が同時に入ってくる。ステージ左側からは眠りの小五郎で有名の毛利小五郎。そして右側からは、有名弁護士の妃英理。

くしくも、開幕カードは別居中の夫婦対決となった。

ちなみに、コストを抑えるため、派手な入場は行わないように予め決定してある。そのため、選手は同時の入場となっている。セコンドも各自で決められており、小五郎には自ら立候補した山村刑事が、英理には秘書の栗山がついた。

「悪いが、英理…この試合勝たせてもらうぞ。」

「あら、そう上手くいくかしら、大学時代公式戦で大きく負け越した名探偵さん。」

かなり2人が嫌悪なムードだったので、審判の山下が止めに入り、すぐに簡単なルール説明（第1話で掲載しています）を行った後、リングサイドへ2人を分けさせた。

そして…

「只今から、第1試合を開始します。…」

「…」

「ファイッ!!」

ゴングが鳴り、試合が始まった。しかし、両者牽制している。特に違反が定められてないので、牽制して相手の動きを読むことも戦略としては認められている。

「英理のヤツ…どっから攻めてくるんだ…」

小五郎にいつもののん気さがない。さすがに試合だから気合も入っていることだろう。小五郎が対策を練っていた次の瞬間…

英理がいきなり小五郎の胸ぐらをつかみ、背負い投げをしようとしていたのだ。しかし、すぐに体が反応した小五郎はその寸前で投げられるのを阻止した。

「あなた、なかなかやるわね。」

「おい、今は試合中だぞ。」

と一言ずつ話を交わした。そのスキに…

今度は小五郎が大外刈りで英理からダウンを奪う。そして、そのまま押さえこみに入った。

このまま動きそうにもない…必死に脱しようとする英理だったが、完璧に押さえ込まれているうえに体力では明らかに小五郎のほうが上だった。

そして、セコンドの栗山から白いタオルが投げ込まれる：

ゴングが鳴り、この瞬間小五郎の勝利が決定した。

「只今の勝負、毛利小五郎選手の勝利です！！」

と言うアナウンスが流れると、観客が一斉に沸いた。

試合終了後

「さすがに、感触だけは残っていたようだね。残念だけど…潔く負けは認めるわ。」

「ああ、悪いな英理。次の試合は英理の分まで頑張るよ。」

「しっかり休みなさいよ…」

選手控え室

「えーっ！お父さんが勝ったの！？」

2人の娘である蘭は、小五郎の勝利に驚いていた。

とりあえず、早くに勝敗が決まったおまけに柔道技での勝負だった

ので、怪我もなく、第1試合は終了した。
これで試合に勝った小五郎は次の準々決勝で、赤井と有希子の勝者と対戦する。

試合結果

毛利小五郎○（大外刈り＋押さえこみ）●妃英理

1 回戦第2試合〈FBIに挑む変装の達人（前書き）

試合展望

赤井秀一は得意としている銃はルール上使用できず、攻撃力は下がったが、それでも工藤有希子を負かす力はある。一方の工藤有希子にはかわし技を得意としている。序盤我慢の戦いをすれば、勝機はある。

1回戦第2試合／FBIに挑む変装の達人

第1試合の興奮が残っている中、10分間のリカバリーを置いて第2試合が開始されようとしていた。

第2試合、出場するのは左側からワイルドカードでの出場の赤井秀一、右側からは元女優の工藤有希子。なんと工藤選手は婦警の格好での登場だ。

「おいおい、そんな格好で試合できると思っているのか？まったく、目立ちたがり屋にも程があるぜ。」

「なによ、その言い方。それでも、私は勝てる自信があるわよ。この格好、意外と使えるんだから。」

2人ともやけに自信満々だ。セコンドには赤井にはジェームス、有希子には優作がついた。

「さあ、今から第2試合が始まります。レディーゴー！」

ゴングが鳴り、第2試合が始まった。

力では劣る有希子だが、ある作戦を持ってきたのだが、果たしてそれが通じるであろうか…

と思っていた矢先だった。

いきなり赤井が華麗なる速攻技で有希子にダメージを与える。有希子も負けじと防御をするが、赤井の力のほうが上だった。

ところが、有希子が意外にもケロっとしている。それもそのはず、急所に当たっていなかったのだ。

「さあ、どう、これからが本当の勝負よ。」

有希子が言うのと、すぐに赤井の軸足である右足に蹴りを入れ、ダウンを奪う。軸足を狙うのもこのルール上ではOKとなっている。

「（この女、やけに手ごわいぞ。どうすればいいのだ。）」

すると、セコンドでもあるジェームスが声をかけた。

「秀一、大技を使わず、小技を使いなさい。」

その言葉に、赤井が立ち直った。そのとおり、軽いジャブをかまし、有希子の体力を少しずつ削る作戦に出た。しかし、負けじと有希子も赤井の腹部に蹴りを入れるなどし、両者一步の譲らない展開となった。

小技中心のまま、5分が経過した。さすがに、両者疲労の色が隠せないでいた。

そのときだった。

赤井が勝負に出た。思い切って、ジャブから一気に蹴りを入れてきた。しかし、有希子にそれを見抜かれてしまい、逆に有希子が体勢を崩した赤井に踵落としを見舞った。見事に的中して、赤井はダウンしてしまった。

「（どうよ、私が女だからって、調子に乗らないでよね。）」有希子は勝ち誇ったような顔をして、ダウンした赤井を見ていた。

そのあと、赤井は立ち直ったが、完全に意識が朦朧としていた。ジェームスが声をかけるが、反応がなかった。

その後は完全に有希子優勢となった。そして：

残り2分10秒

赤井のキックが外れ、有希子が蹴りを入れ、見事に的中。赤井はそのまま立ち直ることが出来ず、審判がストップを出し、試合が終わりを告げた。

試合終了後のインタビュー インタビュアーは歩美ちゃん。

「有希子お母さん、この試合どうでした？」

「ええ、彼、FBIだから正直怖かったけど、銃がなければ、こんな感じなのかなと。次は小五郎君とね。自信？もちろんあるわよ。」

控え室

「シュウ。大丈夫？」

次に試合を控えていたジョディは意識が薄れていた赤井を心配していた。

「ああ…でも、あの女…かなり…手ごわいぞ…」

喋りもほとんど限界に来ていた。

「…」

何も言葉を発することも出来ないまま、ジョディがリングに向かった。

試合結果

工藤有希子○（残り2分10秒キックダウンDr・ストップ）●赤

井
秀
一

1 回戦第3試合く友の敗北の影響（前書き）

試合展望

甲乙がつけ難い。ジョディも稲尾も一長一短。どちらも飛ばす能力があるため、場合によっては、場外での戦いも十分に考えることが出来る。先のことを考え、どちらも疲れを残した状態で終わりたいところ。

1回戦第3試合／友の敗北の影響

また第2試合が終了して10分のリカバリーを置いて、続く第3試合の準備が出来ようとしている。

続く第3試合は、FBIのジョディ・スターリングと大金高校のエース稲尾一久の戦い。ジョディは前の試合で赤井秀一が敗れているのを知って試合に挑むこととなる。

「（シュウ。あなたの分まで戦うわ。絶対に優勝する…。）」
ジョディの頭の中には赤井しか見えてこなかった。一方、

「この大会、優勝するんは、このローションを塗ってる…この稲尾や！！」

野球部の格好で試合に挑む稲尾。今回は名園の店主から少し塗れば筋力回復するというローションを塗っていたのだ。大会前、審判から怪しまれはしたが、なんとかセーフとなっている。当然ながら、彼のポケットにはキャッシュカードが入っている。

両者、互いににらみを聞かせる。なお、安全のため、ジョディの眼鏡は外されることとなった。

「只今から第3試合を開始します…レディーゴー！！」

と試合が開始した瞬間、あっけなく勝負が決まってしまった。
なんと、ジョディがパンチをかまそうとした稲尾の胸ぐらをつかみ、
あっけなく背負い投げ。しかも、リングを通り越して、観客席の中
段まで投げ飛ばした。おかげで、稲尾の背中は痛むばかり……
何とか立ち直ったが、体中が血だらけ。幸いにも頭部の出血がなか
ったが、それを見た審判がバツサインを示し、あっけなく終了。ジ
ョディが圧勝した。

「まったく、なんなのあの子。やる気だけじゃないのよ。」

と言うと、早くにリングから去っていった。そして、インタビュー
しようとした歩美にいつものこの台詞を放った。

A s e c r e t m a k e s a w o m a n w o m a n
……」

一方、

「なんや、あのババア。卑怯やないか。ってかあのおっさん、ホン
マに使いへんわ。」

と愚痴をこぼしていた稲尾に長島が近づいた。

「お前、ポケット逆にしてねーか？」

と言われると、稲尾はハッと気づいた。

「お前、なんでそれを言わんのや！」

「仕方ないよ。じゃ、オレは試合があるから……」

「あの野郎……」稲尾の怒りは当面収まりそうにない。すると救護担
当者がやってきて、

「とにかく稲尾君、治療よ治療。」といわれると、すぐに救護室へ
と向かった。

この試合に勝利したジョディは次の準々決勝で和葉と高木の勝者と
対戦する。

試合結果

ジョディ○（開始10秒背負い投げ審判ストップ）●稲尾一久

1 回戦第4試合く傷だらけの刑事と女子高生（前書き）

試合展望

1 回戦屈指の好カード、警視庁の刑事と大阪府警刑事部長の娘という戦いとなった。高木はプロレス技を得意としており、一方の遠山は合気道を得意技としている。いかに互いの技を封じ、自分の攻撃パターンに持っていかかが、勝利への鍵となる。

1回戦第4試合く傷だらけの刑事と女子高生

通常10分のリカバリーを置くことになっていたが、今回は早くに終わったため、両選手が了解を出した時点で試合を始めることとなった。

第4試合は、1回戦屈指の好カードとなった。左側から、父でもある刑事部長を先頭に登場してきたのは、優勝候補の一人に入っている遠山和葉。そして右側からは次に試合を控えている佐藤に送られて、千葉とともに登場した高木渉である。

「悪いけど、この試合、勝たせてもらうで。」

「いや、こちらこそ。どうなっても知らないよ。」

それもそのはず、和葉は合気道、高木はプロレス技で戦おうとしていたからだ。しかし、両者とも早く試合を終わらせたいという気持ち強い。次の試合で当たるジョディに体力的な疲労がないからだ。

両者がサイドへ移る。そして：

ゴングが鳴り、試合が始まった。

まず最初に仕掛けたのは高木だ。いきなり合気道の公式服を着た和

葉の裾をつかむと、そこからいきなりプロレス技を仕掛けた。これは名前が決まっていらないが、高木オリジナルの技であると千葉が言っていたのである。

技をまともに受けた和葉は背後から倒れてしまう。しかし、すぐに立ち直ると高木を投げたのだ。そこから、一気に蹴りを入れようとしたが、高木に止められてしまう。その後足を取られた和葉も倒れ、一転、寝技での戦いとなった。

この状態が2分も続いたので、さすがに審判の山下が止めに入り、スタートの状態に戻して、試合を再開した。その直後だった。

高木がいきなり和葉を両手で持ち上げる。

「きゃっ、何してんの？」

和葉が驚くのも無理はない。しかし、高木は和葉を一気に下に叩きつけたのだ。

「イタッ!!」

強くだたたきつけられた和葉が痛みを訴えた。そこから高木が押さえに入ろうとした。しかし、和葉はすぐに体をひゅつとよけると、ミスをした高木の上へ行き、肘打ちをかました。高木の口から血が出る。しかし…

「和葉ちゃん！」

「和葉！」

両サイドのセコンドから和葉の名前が叫ばれる。そう、先ほどの叩き付けで、和葉の頭から血が流れていたのだ。両者血まみれになるのはこの大会入って初めてのことだ。

「高木さん、あかんことしましたね。絶対許さへんで…」

「和葉ちゃんだって…どうなっても知らないよ…」

それから、両者の殴り合いが始まった。血が流れたいた所からして、和葉が不利なのは目に見えていた。しかし、両セコンドからは大き

な声が出る。

「高木！腹だ！腹を狙え！」

「和葉、とにかく殴り続けろ！そうすれば絶対に勝利は近づくで！」スタンドからも大きな声援が送られる。

「たかぎ！たかぎ！」

「とーやま！とーやま！」

試合時間残り3分、高木のストレートが和葉の腹部にクリーンヒットする。すると、和葉の口から夥しい量の血が吹き出た。

「和葉！！」刑事部長の声がむなしく響く。しかし、それでも和葉は立ち上がる。

「まだ、こんなんであきらめへんで…」

と、小声で喋る。

すると、大きな声で高木に襲い掛かる…

「ハアアアアアアア！！！」

和葉のストレートが高木の顔面にヒットした。すると高木も鼻血を出す羽目になった。

そして、試合を控えていた選手も出てきた。

「和葉、早く締めろ、今がチャンスや！」と平次が叫べば

「何してるの、高木！女子高生にこのまま負けてもいいの？」

と佐藤も負けじと叫ぶ。

そして、高木がパンチをかまそうとしたその時だった。

和葉はすぐに高木の腕を持ち、力づくで高木を投げた。

「せいやっ！」

和葉の馬鹿力は高木をステージ外へ吹っ飛ばした。そして、最後は高木の上に乗って、勝負あり！

長丁場、血が吹き出る激しい試合は和葉に軍配が上がった。

そして試合が終了した瞬間、和葉も高木の上を覆いかぶさるように倒れた。頭部の出血が予想以上だったのだろう。

救護室

「……ん」

「ん、起きたか、和葉……」

「へえ……じ……?」

「ああ、平次や。初戦よう突破したな。」

「あたし、勝ったんや……」

「お疲れ様……」

「高木さん!」

「参ったよ。ほんとになめてたよ。完敗だね。」

「そんなことないですよ! あたしもあんなひどいこと言うたから……」

「いいよ、覚えてないし。次の試合は大丈夫?」

「しっかり、休まなあかんわ。でも、出来ると思うで!」

その後、両者は休養に入った。

勝った和葉は次の試合でジョディと対戦するが、体力は回復するだろうか……

試合結果

遠山和葉○（残り1分39秒背負い投げ）●高木渉

1 回戦第5試合〈悩殺ポーズ耐久戦（前書き）

試合展望

攻撃力はほぼ互角だが、警察官として防御力に優れている佐藤に有利となりそうだ。また、佐藤は序盤に秘策技を用意しているので、それも楽しみ。

一方で工藤は持ち前のスタミナと破壊力は上位に入るキック力で活路を見出したい。

1回戦第5試合〈悩殺ポーズ耐久戦

第4試合がすさまじい試合となり、会場のボルテージは上がっていた。

そして第5試合となる。

左サイドから東の名探偵工藤新一。右サイドからは佐藤美和子が登場した。

どちらも必殺技も持っており、非常に楽しみな一戦となりそうだ。

「よろしくお願いします。」

「あら、こちらこそ。女だからといって甘く見てたら困るわよ。」
佐藤の悩殺ポーズを見せる。これで新一をノックアウトするつもりだったが、新一にはまったくダメージがない。

そうこうするうちに、試合のゴングがなった。

試合開始当初は、佐藤が色気のポーズを何回も見せたが、新一にはまったく効果がない。

観客は試合なんだから本当に勝負しろよと呆れている人も何人かいた。

試合が動いたのは開始2分だった。さすがに推理力は群を抜いてい

た新一が佐藤の胸に隙があることを見抜いて、そこに豪快にシュート並みのキックを見舞った（もちろんボールはない）。見事に豪快に倒れた佐藤の表情がこれまでと一変した。

「（やべえ。やっちゃったかな…）」

新一がそう思ったが、時すでに遅し。佐藤の爆裂拳が新一を襲う。一気に激しい打ち合いとなった。あの強烈な一蹴りが佐藤の怒りを買ってしまった結果になった。

新一も必死に抵抗し、攻撃を見舞うも、先ほどよりは威力が減少している。佐藤も攻撃能力は確実に落ちていた。

そして試合が開始して5分が経過したその時…

「行ってしまいなさい！工藤新一君！」

と佐藤美和子、本日2回目の爆裂拳が炸裂した。これにはさすがの新一ももろに受けてしまい、ダウンを取られる。しかも、起きない…

「3…2…1…」

とその時、新一がかすかに立ち上がったが、そのあと、すぐにふらりと崩れ落ちた。

ここで審判がとめて、試合が終了した。

最初はネタかと思われる試合展開だったが、結局は格闘技らしい試合展開で、佐藤美和子に軍配が上がった。

歩美ちゃんが佐藤にインタビューをする。

「工藤君、思ったより私に興味がなかったみたいでショックだったけど、何とか勝ててよかったわ。高木君が負けたからっていうのもあるわね。やっぱり、蘭ちゃんLOVEだったみたいだったわ（笑）」

「そうなんだ」と歩美ちゃん。妙に納得している。

そのインタビュをかすかに聞いていた工藤は次のように思っていたという。

「（バーロ。そんなことねー。というより蘭の前で無様な戦いが出来ねーよ。ってか、アイツ…笑ってるんだろうな…）」

ということ、第5試合は佐藤の勝利で終わった。次の試合で、毛利蘭と長島茂雄の勝者と準々決勝で激突する。

試合結果

佐藤美和子○（5分33秒爆裂拳TKO）●工藤新一

1回戦第6試合く大本命登場！己のプライドをかけて…（前書き）

試合展望

優勝候補筆頭の毛利蘭が総合力で上回る。過去にあらゆる強者をなぎ倒した力はダテではない。この大会も思う存分発揮してくれるに違いない。

一方の長島は破壊力では毛利に劣るだけに、技を巧みに利用し、プレッシャーをかけたい。確実に決まれば、大金星のチャンス。

1回戦第6試合／大本命登場！己のプライドをかけて…

過去5試合は男1勝女4勝と圧倒的に女優位の状況だ。

次の試合も強力女、しかも真打の登場だ。

第6試合は左サイドから、港南高校の主砲・長島茂雄。右サイドからは今他界の優勝候補大本命の毛利蘭。

大本命登場で、会場はヒートアップしていた。

対する長島は強力な武器こそないが、江夏が持ってきたお守りをいつものようにポケットに入れて、お金代わりにした。

長島はまったく蘭と話すことなく、全神経を集中させていた。

そして…

ゴングが鳴り、試合開始だ。

すると、蘭がいつものように表情を強張らせ、長島に襲い掛かる。

「アアアアアアアアアアアアアア！」

蘭はいつものように蹴りを入れる。しかし、長島は行動を読んでいたかのように、ひゅるりとよけて、すぐに立ち上がった。

「（まったく攻めれる気配がない…）」

長島は攻める箇所を絞りきれないでいた。すると、蘭は長島にこんなことを言つてのけた。

「あなた、それでも港南の主砲だったの？ユニフォームの名前が泣いてるわよ。さあ、かかって来なさい。ボコにしてあげるから…」

この発言に、長島は完全に切れていた。

「オレをなめてかかるとどうなるか：分かってるよな！」

と発言した瞬間、激しい殴り合いとなった。

しばらく殴り合いが続いた。蘭が強いのは分かるが、予想以上に長島も健闘していた。しかし、この試合もまた、流血試合となった。長島は口を切り、顔の一部からも出血しており、左足が腫れ上がっていた。一方の蘭も頭部から血が垂れ落ち、口からも出血し、息も荒くなっていた。

それでも蘭は余裕だった。血が垂れ落ちている顔の表情は“かかって来なさい”といわんばかりだ。

そして、再び蘭が襲う。

「アアアアアアアアアアアア！」

今度は裏拳が長島にヒットする。長島はその場に沈んでしまう。

「長島君！」

長島サイドのセコンドにいた江夏が、長島の名を呼ぶ。そして、すでに初戦で負けた稲尾も応援する。

「お前がこんなんで、負けてどないすんねや！」

意識がなくなりつつある長島だったが、この稲尾の声ははっきりと聞こえた。

そして、ゆっくりとはあるが、立ち上がった。そして、蘭に向かっていく。

「これは殺し合いじゃねえ。空手は……」

[illegible]

というと、蘭が着ていた空手着の裾を持ち、背負い投げをした。そして、そのまま押さえ込みに入った。さらに、その衝撃で、蘭の頭からは血が噴き出る。

「毛利！」

「蘭！！」

セコンドに入っていた先輩の塚本と応援していた園子が大声を出し、心配をする。

しかし、それは無用だった。

すぐに、抜けきると、ふらつきながらも長島をめがけて、襲いに行く。

そして長島もまた、蘭に向かっていく。

[illegible]

!!!!!!

[illegible]

蘭のストレート、そして長島のアップ！。両方とも決まった。しかし、打ち所が悪かったのは長島のほうだった。

そして、吹き飛んだ長島をさらに蘭の連打が炸裂。そして、とどめの蹴りが決まり、リングアウトとなった。

そのまま、長島は起きることができず、万事休す。本命・毛利蘭が苦戦しながらも初戦を突破した。

しかし、あまりに激しい試合だったせいか、蘭も和葉同様にその場に倒れ、担架で運ばれた。また、長島も同様だった。

あまりの激しき、血の出る試合だったので、歩美は人目にはばからず、泣き出してしまったほどだ。

勝った蘭は次の試合で第5試合で勝利を収めた佐藤刑事と対戦することが決まった。蘭としては女と格闘技をするのは生涯おそらく初めてのこと。果たして、秘策はあるだろうか……

試合結果

毛利蘭○（残り2分45秒爆裂拳リングアウトTKO）●長島茂雄

1回戦第7試合く誰もが予想だになかった試合（前書き）

試合展望

普通に戦えば互角だが、黒羽に攻撃の術がないため、宮本が勝利すると予想する。女性ワイルドカードでの出場の宮本も武道経験があり、そう簡単に攻め入る隙を見せない。黒羽は宮本の隙について、勝利を手繰り寄せたい。

1回戦第7試合、誰もが予想だにしなかった試合

これまでの6試合、いずれも好試合連続で、観客は大いに沸いていた。しかし、前の試合で、流血の試合だったために、リングは血まみれになっていた。

続く第7試合は婦警宮本と怪盗キッドこと黒羽快斗の一戦。快斗はキッドの格好で登場した。

しかし、この試合はあっけなく決まってしまった。

由美も一応格闘技はしているはずだが、能力は未知数だ。その未知数な力は快斗にとっては低かったのだろうか：

開始早々、由美は何度もパンチをかまそうとしたが、快斗は次々とかわす。しかし、快斗は一切攻撃をしない。得意のトランプ銃が使用できないからだ。どうやら、快斗は由美の体力を早い段階で使い果たそうという作戦らしい。

「おや、まだ戦う気かい？ 婦警さん。」

「何が婦警さんよ。冗談じゃないわ。」

とがんがんに攻めたが、快斗にあたりもしなかった。

そうすること4分：

由美は頭が朦朧とし、目がかすみ、ついにはその場に倒れてしまったのだ。審判がそばによっても起きる気配はない：ゴングが鳴り、勝負がついた。

なんと、黒羽快斗、一発もかますことなく勝ってしまったのだ。

歩美がインタビューをする。

「すごいな、怪盗キッド。」

「ええ、これぐらいは：じゃ、失礼」

というと、その場から立ち去った。どうやら、中森警部に見つかってしまったらしい。

一方の由美はかなりくたくたな状況になり、誰とでも喋る状態ではなかったのだ。

この結果、黒羽快斗は準々決勝で服部平次と京極真の勝者と対戦する。

試合結果

黒羽快斗○（4分スタミナ切れ）●宮本由美

1回戦第8試合く色黒男同士、熱い夏前の戦い（前書き）

試合展望

襲撃の貴公子・京極真の優勢で試合展開は進むであろう。京極は欧州から帰国したばかりだが、その力は他を凌ぐ。

服部はなれない格闘技でどこまで自分の実力を発揮できるか。しかし、状態が良い京極から金星を上げるのはきわめて困難かもしれない。

1回戦第8試合く色黒男同士、熱い夏前の戦い

予想だにしなかった試合から10分が経ち、いよいよ1回戦最後のカードとなった。

最後に戦うのは西の高校生探偵・服部平次と襲撃の貴公子・京極真の一戦。1回戦唯一の男性同士のカードだ。

「よっしゃ、一本取らせてもらおうで。」

「そう簡単にはやられませんよ。」

両者余裕だ。

そして、ゴングが鳴り、1回戦最後のカードが始まった。

まずは平次から攻める。しかし、さすがは高校生探偵、無理をせず、じっくり攻めていつている。

相手が欧州選手権で上位に入っていることは情報として入手済みであるからだ。

「このまま行ったら、ええ勝負になる。焦るのはまだ早いで。」

平次は呪文を唱えるかのように、自分に言い聞かせた。

だが、京極はその隙を見逃さなかった。

平次の正拳をひいとかわすと、そこから怒濤の攻めに入った。殴る、蹴る、そして飛ばす。いずれもさすがは優勝候補と思わせるほどの、スピーディーな攻撃だ。普通の人間なら、ここでジ・エンドだが、平次は倒れながらも、立ち上がった。

そこから一発かまそうとしたが、不利な状況に陥った平次に、もはや京極を攻め入る力はなかった。あとは京極の袋たたきにあい、あつけなくゲームセットとなった。

京極は園子からタオルをもらうと、そのまま控え室に戻った。

一方

「なあ、平次。何してんの？」

「アイツ：ただもんちゃうな。勝てへんわ：」

平次はもはや話すことも出来ない状況だった。結局、そのあとに救急車で病院へ運ばれていった。

勝った真は次の試合で快斗キッドと対戦する。

試合結果

京極真○（2分3秒TKO）●服部平次

1回戦のおさらい、準々決勝当日の朝

さてこれで1回戦が終了した。もう一度勝者をおさらいしておこう。

A 毛利小五郎

B 工藤有希子

C ジョディ

D 遠山和葉

E 佐藤美和子

F 毛利蘭

G 黒羽快斗

H 京極真

これに準々決勝は以下の組み合わせとなった。

第1試合 毛利小五郎－工藤有希子

第2試合 ジョディ－遠山和葉

第3試合 佐藤美和子－毛利蘭

第4試合 黒羽快斗ー京極真

先ほど、大会実行委員会より、和葉、蘭の負傷状態がひどいことにより、公正を規すため、1ヶ月後に試合を行うことが発表された。

そして1ヶ月後：

「ふああ、ったく何で1ヶ月もずれんだ？」

「仕方ないでしょ、お父さん。私も怪我してたんだから。」

「そやそや。このままやってたら、あたし死んでたで。」

3人が話しながら会場入りした。どうやら蘭も和葉も回復したようだ。

一方

「どうして…何で…」

そう答えてたのはジョディだった。このまま試合を行えば、ジョディが圧勝していた。そのためこの1ヶ月間は必要以上にトレーニングを積んでいたようだ。

「何してるんですか、佐藤さん。」

「いいから話しかけないで！蘭ちゃんに負けるかもしれないから。」
佐藤は蘭との対戦を心待ちにしていた。そのためのイメージトレーニングらしい。蘭が空手と大会で優勝してることは承知している。しかも高校総体16強という実勢を加味しても、佐藤が事前にピリピリしているのも頷ける。

「レディーズ エー——ンド ジェントルメン！
さあ、本日、準々決勝の火蓋が気って落とされマース！！
大きな声援よろしくお願いしまーす！！！」

会場が大いに沸いた。さあ、準々決勝の始まりだ！！

1 回戦のおさらい、準々決勝当日の朝（後書き）

さあ、準々決勝の始まりです。

諸事情により更新が出来ませんでした、やっとのことで、更新することが出来ました。

感想はもちろんのこと、これからの展望、優勝予想など、この小説に関連することなら何でも歓迎ですので、どんどんコメントをお寄せください！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9366b/>

第1回C－1 グランプリ

2010年10月10日04時56分発行